

平成22年3月1日

第72号

関東の森林から



関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



河津桜と天城連山遠望（静岡県河津町）
（提供者：河津町観光協会）

美しい森林づくり

公益的機能の確保と資源の循環利用

森林技術センター

私の視点

「天城の自然を後世に」

ボランティア団体 天城を守る会 会長 栗田 安英氏



公益的機能の確保と資源の循環利用

森林技術センター

茨城県にある関東の名峰筑波山(887㍎)は国定公園に指定されており、都心からでも日帰り登山が可能な山として多くの人々に親しまれています。2005年8月には、つくばエクスプレス(秋葉原〜筑波)の開業もあり、年間260万人以上の皆さんが訪れています。

森林技術センターでは、「筑波山複層林試験地」として、筑波山の山腹に、森林の持つ国土保全・水資源のかん養・自然環境の保全・景観の維持等、公益的機能への国民の関心・要請等に配慮して、1977年からさまざまなタイプの複層林のモデルとなる試験地の造成に取り組んでいます。



500本保残区、2,500本/㍎植栽

現在、試験地内に20箇所のプロットを設置し、上層木および下層木の成長量や植生等のモニタリングを行っています。

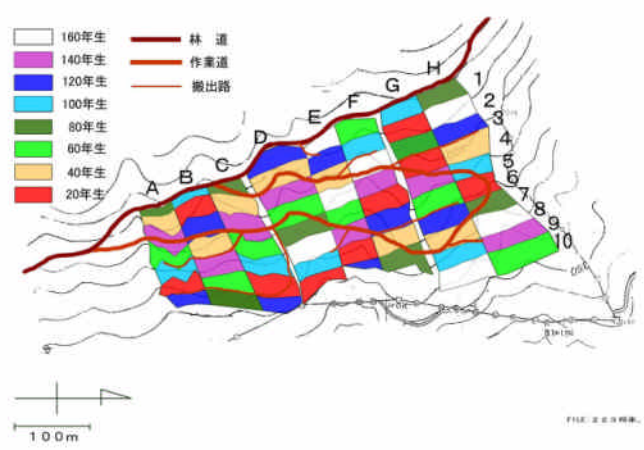
試験地の概要

試験地は、筑波山中腹の北東向き斜面、標高350〜550㍎、平均傾斜23度の区域に35㍎を設定し、上木の保残の形態や保残本数により、点状保残区、列状保残区、群状保残区、等高線状・直線状保残区、魚骨型伐採区、魚骨型伐採改良区、受光調整伐区、植栽本数調整区の8タイプ20区画を設定しています。樹種は上層木・下層木ともヒノキ(一部上層木にサワラ、スギが混在)で、林齢は、上層木が全て110年生、下層木が7〜29年生となっています。

長期育成循環施業の取組

更に、2002年からは公益的機能の確保や森林資源の循環利用を図ることを目的に、前述の等高線状・直線状保残区において、長期育成循環施業へ誘導するための施業に取り組んでいます。現在は、9・65㍎の区域に上層木110年生、下層木8年生及び28年生の3段の誘導段階の森林となっています。今後、20年毎に伐採・更新を繰り返し、140年後には伐採・更新が一巡し、160年生から1年生まで、

完成時の林齢配置



20年違いの林分がランダムに存在し、モザイク状に8段からなる豊かな森林の構造となります。20年ごとに160年生のヒノキを約1.3㍎ずつの収穫、10年ごとに全域で間伐を実施することにより、大径材から小径木まで多様な材が収穫できることになり、資源の循環利用も可能となります。

この長期育成循環施業への関心は高く、林業関係者からの視察の要望も多くあります。(詳しくは、当センターのホームページをご覧ください。)
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/sizyutu/tyoki/tyoki.html>



筑波山試験地(中央右上)

赤谷プロジェクト 近況報告

現代都市文化研究会の視察

1月23日(土)、林政審議会委員の青山佳世氏もメンバーとなっている現代都市文化研究会24名が「赤谷の森」を訪れ、赤谷プロジェクトの取り組みを視察しました。

当日は、計画部長より赤谷プロジェクトの概要について説明した後、「いきもの村」に移動し、茂倉沢治山事業における溪流環境復元の取り組みを紹介したり、冬芽の観察を行いました。

その後、法師温泉に移動し、赤谷プロジェクト地域協議会の岡村会長から、地域が赤谷プロジェクトに望



昼食会場で赤谷プロジェクトを説明

むことについて話があり、「代々、温泉を守るために木だけは伐っちゃいけない」という地域の言い伝えに、皆さん大きな感銘を受けたようです。今回、来られた皆さんは、財界やマスコミなどの第一線で活躍されている方も多く、赤谷プロジェクトについて幅広い方面で関心が高まっていくことを願って止みません。

「赤谷の森自然散策」を開催

2月14日(日)、赤谷センター主催で冬の「赤谷の森自然散策」を開催し、県内から親子連れを含め18名が参加しました。

当日、現地に向かうバスでは、赤谷プロジェクトの生物多様性復元に関する取り組みや、豊かな自然環境と旧三国街道などの歴史的遺産を活用した地域振興への取り組みを説明



冬芽の見分けかたを解説



「いきもの村」で参加者と記念撮影

しました。

今回の会場は、旧猿ヶ京小学校を活用しましたが、まだ真新しい木造の校舎に参加者から感嘆の声が上がりました。教室では元当局職員の長島成和氏から豊富な経験に基づき、「赤谷の森」の植生や冬芽の見分け方などについて丁寧な解説を行いました。その後、「いきもの村」に移動し、「赤谷の日」などのサポーター活動について紹介し、冬芽や動物の足跡の観察などを行いました。

今回の観察会を通じて一見寂しい冬の森林にも、色々な楽しみ方があることを伝えることが出来たと思います。

環境教育ワーキンググループの取組

2月19日(金)、平成21年度第2回環境教育ワーキンググループが開催



旧猿ヶ京小学校の活用についても議論

されました。赤谷プロジェクトにおける環境教育の特色は、生物多様性復元に向けた様々な調査研究結果を直接活用できることです。このため、他で行われている森林環境教育とは異なる独自の環境教育プログラムの作成について検討を進めています。今回は、特定非営利活動法人E.C.O.P.L.U.S代表の高野孝子氏をゲストに招き、新潟県南魚沼で首都圏の参加者も交えて実施している休日農業講座「田んぼのイロハ」など「TAPPPO」の取り組みについて紹介して頂きました。環境教育を通じて地域の活性化への幅広い取り組みは、赤谷プロジェクトの活動に応用できる内容も多く大いに示唆を受けました。

また、環境教育の拠点としての、旧猿ヶ京小学校の活用のあり方についても検討されました。(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)



講義の様子

「森林官になりたい！」 林野庁長官への手紙から

関東森林管理局 計画部長 藤江 達之

ある日、都内の小学校6年のH君から林野庁長官あてに手紙が届きました。「将来、森林官になりたいのですが、どうしたらよいのでしょうか」というものでした。

これは、東久留米市の小学校の総合的な学習の時間において、子ども達があこがれる職業について学ぶプログラムの中で書かれたものでした。

そこで、関東森林管理局から職員をゲストティーチャーとして派遣し、森林官についての出前授業を行うことにしました。

当日は、H君をはじめ6年生全員96人と担任の先生方が待つ教室に、作業服に腰ナタ・ノコ、熊よけの鈴、スパイク地下足袋に脚絆という姿でうかがいました。(念の



ため、刃物の持ち込みについて事前に了解をいただきました。)町の子は森林官に会ったこともなく話だけではイメージがわからないだろうと考えたからです。

まずは国有林とは何から始まり、森林官が日々森林を歩き、地域の人たちの声を聞きつつ、木を育て、森林の動物にも気を配っていることなど、幅広い仕事の内容を説明しました。一人の森林官が東久留米市全体の5倍にも及ぶ面積の森林を管理していることや、地図を頼りに道のない山の中を歩き回るといった話は新鮮だったようです。特に関心が高かったのは、話の内容よりも、熊よけの鈴や、林尺、測高器などの森林官必携の「モノ」でした。

東久留米市と交流のある地区の国有林の図面を用意したところ、修学旅行で行ったところが国有林であることがわかり、掲載された

独自の情報も面白かったようです。また、森林官が特別司法警察職員であることを知り、盗石を現行犯で取り締まった経験談に目を輝かす子が多くいました。

後日、児童たちからお礼の手紙が森林管理局に届けられました。H君は、森林官になりたい気持ちが強くなったとのこと。また、サッカー選手になりたかったけれど森林官もカッコイイからなってみたい、と書いた子もいました。森林の働きや治山のことなどは5年生で学習したことでしたが、リアルな体験とともに語られることにより、興味が深まったものと考えています。

森林や国有林野事業について、国有林の職員が直接語っていくことの重要性を改めて認識する機会となりました。



絵:静岡森林管理署 平田美紗子



アマギシヤクナゲ

天城山の一部の中伊豆地区には、伊豆や富士山の山地に多く見られるマメザクラの群生があります。しかし近年立ち枯れが多いことから、「天城山皮子平マメザクラ保護協議会」を立ち上げてその原因調査を行っています。原因には温

暖化、動物の食害、弱った木に虫（コスカシバ）が侵入など、いろいろな可能性が考えられますが、今後原因究明のため、協議会で調査を続けていく予定です。また、伊豆地域では鹿が増え、深刻な問題になっています。現在、伊豆半島に約2万頭生息していると推定され、森林だけではなく、農業など里の被害も毎年増えているのが現状です。



ボランティアの森での植樹祭の様子

伊豆半島は位置的に北方系植物と南方系植物の双方が観られる地域であり、特に天城は日本有数の多雨地帯であることから関東の屋久島と言われています。私は伊豆半島の天城連山を中心に、「天城を守る会」というボランティア団体として活動しています。当会は昭和38年に発足しましたが、当時は、新聞で「天国で結ばれる恋」と騒がれ自殺が多かったこともあり、

遭難者の捜索活動に山を歩き回ったという記憶が強く残っています。現在では歩道も整備され、日本百名山の1つ「天城山」でもありハイキングコースも多く、稜線沿いにはブナを代表とした豊かな森が広がっていることから、多くのハイカーが訪れています。天城山には固有の植物が多く、その一つが「アマギシヤクナゲ」です。天城最高峰万三郎・万二郎岳周辺と松崎の長九郎山に群落があり、5月中旬から下旬に可憐な花を咲かせるため、多くのハイカーがシヤクナゲの花を見に訪れます。冬のこの時期は、天城山に雪が降ればメンバーと一緒に山に入り、シヤクナゲに積もった雪下ろしをするのですが、今年はまだ雪が少なくホツとしています。

また、伊豆地域では鹿が増え、深刻な問題になっています。現在、伊豆半島に約2万頭生息していると推定され、森林だけではなく、農業など里の被害も毎年増えているのが現状です。

天城山の豊かな森を大切に、今後も保護活動に力を入れていくとともに、次世代を担う子どもたちにも少しでも山のすばらしさや大切さが分かってもらえるよう、今後も活動が続けていきたいと考えています。



私の視点

「天城の自然を後世に」

ボランティア団体 天城を守る会 会長 栗田 安英



かわごだいら 皮子平のマメザクラの立ち枯れ原因調査

理を行うなど対応に苦慮しています。また、ボランティアの森では地元の小学生等を対象に毎年植樹祭を行い、総合学習の時間には源流見学やホタルの飼育も実施しています。自然に触れる体験活動を通して、子どもたちの自然に対する関心を高めていければと考えています。

天城山の豊かな森を大切に、今後も保護活動に力を入れていくとともに、次世代を担う子どもたちにも少しでも山のすばらしさや大切さが分かってもらえるよう、今後も活動が続けていきたいと考えています。

森林官からのあたり

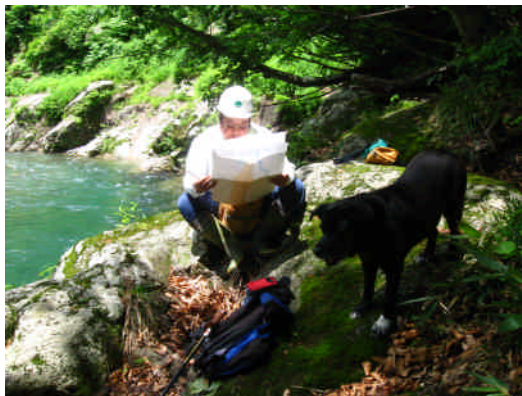
中越森林管理署 小出森林事務所 森林官 細野 勝男



夏のゆきまつり

私の勤務する小出森林事務所は、新潟県中越地方の魚沼市に位置し、尾瀬、銀山湖（奥只見ダム湖）、越後三山の駒ヶ岳、中ノ岳等自然にあふれた約2万1千畝の広大な面積を管理しています。

新潟県の中でも魚沼地方は特に積雪量が多いことで有名ですが、今年もまた軽く2㍍を超える積雪がありました。昨年、一昨年と少雪で除雪作業も少なかったのですが、今年はほぼ毎日除雪をしています。（メタボな私にはとてもよい運動ですが・・・）



巡視の途中でちょっと休憩

雪国の生活は不便なことも多いのですが、この地方にとっては雪も貴重な観光資源で、管内にある奥只見丸山スキー場は、営業期間が12月中旬から正月まで、3月中旬から5月中旬までと春スキーをメインにした営業をしており、特に春スキーはブナの芽吹きの頃まで滑れるので多くのスキーヤーやスノーボーダーが訪れます。

また、銀山平地区では、キャンプ場内に積もった雪を保温シートを掛けて保存し、毎年7月下旬に開かれる夏のゆきまつりの折り、会場に約8万トンの巨大な雪山が作られ、そりや雪遊びを楽しみに大勢の親子、観光客が来場します。このおまつりでは、当署も木工教室を開き、木の葉のバッチ、自然木の枝でマイ箸作り等を行い、来

場者から好評を得ています。

管内の国有林は、大部分がブナなどの広葉樹林であり、多種多様な生物が生息していますが、その中でも特に私が紹介したいのは北ノ又国有林内を流れる北ノ又川の大イワナです。

釣り好きでこの地によく訪れていた、作家の故開高健が愛した川として知られていますが、その開高さんの呼びかけがきっかけとなり、銀山湖の種川として昭和56年、永年禁漁河川に指定されました。また、全国的に見ても珍しいことですが漁場監視員が川のそばの監視小屋に泊まり込みで常駐し、昼夜を問わず密猟者から魚を守っており、このため、非常に多くの魚が生息しています。

8月のお盆頃になると、銀山湖から大イワナの群れが、秋の産卵に向けて遡上を始めます。宮ノ淵という少し深い場所があって、お盆すぎから9月下旬頃まで沢山の大きな大イワナを見ることが出来ます。また、以前10月頃巡視業務の途中、ひとまたぎできるような沢を渡ろうとしたところ、50㍍くらいの大イワナがバシャバシャと飛び出して来てビックリしたこともありました。

魚の多さ、大きさに感動すると思います。紅葉の頃がシーズンですので、リバーウォッチング（魚たちを驚かさないう程度に）は如何でしょうか。

このように自然豊かな環境で勤務していますが、その自然を後世に残さなければいけないと責任を感じています。

国民の財産である国有林を適切に管理し、地域の皆さんと交流を深め、期待される国有林でありたいと思います。



宮ノ淵の大イワナ



「河は眠らない」開高健記念碑
北ノ又川河畔

こぶしだけ 管内の百名山 「甲武信岳」

甲武信岳（2,475㍎）は、埼玉県の西部、奥秩父山塊の中央部に位置し、埼玉県・山梨県・長野県の3県の境にあります。



三宝山から甲武信岳を望む

甲武信岳（こぶしだけ）の名前は甲州（山梨県）、武州（埼玉県）、信州（長野県）の3国に跨る山の頭文字からとされる説や山容が拳（こぶし）のように見えることから名付けられた、という説もあり、甲武信ヶ岳（こぶしがたけ）ともいわれています。

登山ルートは、埼玉・山梨・長野県側にそれぞれありますが、埼玉県側はアプローチが長く上級者向け、山梨県側は中級者向け、長野県側は日帰りもできる初級者向けといわれています。「日本百名山」に指定されたこともあり、登山者は多く、山頂からはハケ岳、中央アルプス、富士山などが一望できます。

この山の頂上に降った雨水は、埼玉県側から東京湾へ注ぐ荒川、山梨県側から駿河湾へ注ぐ笛吹川（富士川）、長野県側から日本海へ注ぐ千曲川（信濃川）の水源となっています。

また、甲武信岳は、秩父多摩甲斐国立公園の特別地域、秩父山地緑の回廊、秩父山地森林生物遺



シラベ林内の様子

伝資源保存林に指定され、シラベ、コメツガ、モミ等の針葉樹、カンバ、カエデ類等の広葉樹によって多様な森林が構成され、貴重な野生動植物が生息・生育し、豊富な森林生態系が保たれています。

近年、甲武信岳を含む秩父山地緑の回廊では、シカによる立木の食害が拡大し、その対策に苦慮しています。

埼玉森林管理事務所は、生物多様性保全の面からも地元自治体やNPO法人等と連携し、被害対策に取り組んで行くこととしています。

（埼玉森林管理事務所 広報広聴連絡官）



甲武信岳山頂

参加者募集

平成22年度「森林カレッジ」

森林・林業を学ぶ、高尾山の森で講演&体験 **受講生募集**

- I 除伐  平成22年5月29日(土)
- II 下刈  平成22年7月24日(土)
- III 間伐  平成22年10月2日(土)
- IV 炭焼き  平成23年1月22日(土)

募集人数 50名（応募者多数時抽選）

対象者 18歳以上で自然や森林・林業に興味があり全4回の講義に出席できる方

申込先 高尾森林センター

〒193-0844 八王子市高尾町2438-1

電話番号(042)663-6689

申込方法 往復ハガキに①住所②氏名③年齢④職業⑤電話番号と返信面には宛名を明記のうえ、「森林カレッジ係」までお申し込みください。

申込締切 平成22年3月31日必着

参加費等 ①年会費2,000円②講座参加費1講座1,000円

詳細は、「こちらを」ご覧ください。

<http://www.rinya.maf.go.jp/kanto/takao/index.html>

発行所 関東森林管理局
編集 総務課

TEL(027)210-1158
FAX(027)210-1159